

第7回 卒業例会

平成16年3月6日(土) / ぐらしきの宿「しらかべ」

平成15年度末で青年部を卒業される室山氏・藤本氏の卒業例会を開催いたしました。



卒業例会に参加された会員諸氏



大山会長からの贈る言葉



鴨井直前会長から記念品の贈呈

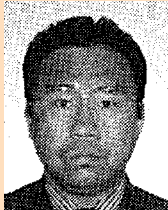


室山氏挨拶



黒川氏の爆笑スピーチ

平成八年度より活躍されてきた藤本環山氏がこの程、卒業されることとなりました。藤本氏、有り難うございました。そしてご苦労様でした。



(株)シギコーポレーション
藤本 環山
■平成 8年9月入会
■平成16年3月卒業

**卒業される藤本環山氏
ご苦労様でした。**

お世話になりました。

経営者が在籍する倉敷商工会議所青年部。皆様方の更なる御活躍を期待して卒業します。



(株)田中商会
室山 敏彦
■平成 8年9月入会
■平成16年3月卒業

**卒業される室山氏より
皆様へご挨拶。**

「卒業」という言葉、めでたいようで寂しいよう。青年部の卒業というのはどちらかというと寂しいですね。いっぺんに歳をとったようで。前半前はフサフサだった記憶がはつきりとなります。残念です。しかし、多くの魅力ある人に出会えたこと、また部会活動に楽しく取り組んだ仲間との思い出も、大変意義あることだったと思います。これも卒業するから感じる事かもしれません。これも卒業するから感じる事かもしれません。これも卒業するから感じる事かもしれません。これも卒業するから感じる事かもしれません。

経営のヒント

土筆(つくし)を探りに行った。毎年行くのだが、目を付けておいた場所は他の人も気付いたらしく、昨年より収穫が少ない。それでも他の草の間に生えているのを目ざとく見つけて手を伸ばす。通りかかった人が「何をされているんですか?」「ほう、土筆ですか、どこにあるんですか?」と訊く。「ほら、そこに」と指で示すがわからない。目の前にあるのに気付かない。目的意識を持たず、つまり何とかして土筆を見つけて今夜のおかずにする

しようの気持ちで眺めれば難なく見つかるものが、「ほう、土筆ですか」くらいの目では、周囲の枯れ草の色と似ているためか見えないのである。こうした見える目、見逃さぬ目を持つには、どんな仕事でも理屈をこねないで自分でやってみる他ない。関心、興味、意欲をもってはじめて見えてくるのだ。見えてさらに面白くなる。教科書では学べないものがそこにあることに気付く。